

めぐみイエス・キリスト教会

2021年11月14日(日)第二主日礼拝
週報「通算第583号」



2021年標題聖句

ヨハネの福音書20章21節～22節

《イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父が私を遣わされように、私もあなたがたを遣わします。」こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。』》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】		
【賛美Ⅰ】	新聖歌203「ああイエス君」	p. 304
【交読文】	No.13詩篇第34篇	p. 888
【賛美Ⅱ】	新聖歌426「世には良き友も」	p. 686
【使徒信条】		
【主の祈り】		
【先週説教】		
【賛美Ⅲ】	オリジナル曲No.18「聖なる方」	
【聖書朗読】	使徒の働き13章14節～25節(新約p. 260上段)	
【礼拝説教】	《パウロのメッセージそのⅠ》	
【聖餐式】		
【賛美Ⅳ】	新聖歌165「栄光イエスにあれ」	p. 235
【平和祈り】		
【頌 栄】	新聖歌63 「父・御子・御霊の」	p. 85
【祝祷後奏】		

●ポイント1. 「パウロとバルナバの伝道方法」とは？

※マルコ1章21節～22節「カペナウムにおいて」 (新約p.66上段)

1:21 それから、一行はカペナウムに入った。イエスはさっそく、安息日に会堂に入って教えられた。

1:22 人々はその教えに驚いた。イエスが、律法学者たちのようではなく、権威ある者として教えられたからである。

●ポイント2. 「改宗者」とは？

①義の改宗者 改宗者としての儀式を受けてユダヤ教信徒となった異邦人。エルサレム神殿において、祭司から「割礼」を授かり、証人の前で「きよめの沈め(洗い)」を受け、神殿にいけにえをささげるといふ、聖なる3つの儀式を行なった者。

②門の改宗者 3儀式までには至らぬが、ユダヤ教教義と聖典を認め、会堂の集会を守り、安息日と食物についての戒規を守る異邦人。「神を恐れかしこむ者」、または「神を敬う者」とも呼ばれている。代表としては、イタリヤ隊の百人隊長コルネリオなど。

●ポイント3. 「バプテスマのヨハネの言葉」とは？

※ヨハネ1章19節～27節「最高議会からの使者」 (新約p.176上段)

1:19 さて、ヨハネの証しはこうである。ユダヤ人たちが、祭司たちとレビ人たちをエルサレムから遣わして、「あなたはどなたですか」と尋ねたとき、

1:20 ヨハネはためらうことなく告白し、「私はキリストではありません」と明言した。

1:21 彼らはヨハネに尋ねた。「それでは、何者なのですか。あなたはエリヤですか。」ヨハネは「違います」と言った。「では、あの預言者ですか。」ヨハネは「違います」と答えた。

1:22 それで、彼らはヨハネに言った。「あなたはだれですか。私たちが遣わした人たちに返事を伝えたいのですが、あなたは自分を何だと言われるのですか。」

1:23 ヨハネは言った。「私は、預言者イザヤが言った、『主の道をまっすぐにせよ、と荒野で叫ぶ者の声』です。」

1:24 彼らは、パリサイ人から遣わされて来ていた。

1:25 彼らはヨハネに尋ねた。「キリストでもなく、エリヤでもなく、あの預言者でもないなら、なぜ、あなたはバプテスマを授けているのですか。」

1:26 ヨハネは彼らに答えた。「私は水でバプテスマを授けていますが、あなたがたの中に、あなたがたの知らない方が立っておられます。」

1:27 その方は私の後に来られる方で、私にはその方の履き物のひもを解く値打ちもありません。」

◎先週の礼拝メッセージの概要【帰ってしまったヨハネ・マルコ】

《紀元49年頃、パウロとバルナバはキプロス島パポスから、船でパンフィリアのペルゲに渡りました。そしてペルゲに着いた時に、バルナバのいとこヨハネ・マルコは、カイサリア行きの船に乗って、帰ってしまったのです。

マルコの家はかなり裕福で、エルサレム市内にあり、伝承によれば、この家は主イエスが弟子たちと最後の晩餐を共にされ、また聖霊降臨日当日も弟子たちが集まっていた場所と言われています。主イエスと弟子たちの集りがなされていたことから、マルコは彼らを直に知っていました。マルコを信仰に導いたのは、使徒ペテロであったと伝えられています。

また、マルコの福音書に『ある青年が、からだに亜麻布を一枚まとっただけでイエスについて行ったところ、人々が彼を捕らえようとした。すると、彼は亜麻布を脱ぎ捨てて、裸で逃げた。』と書き記されていますが、この青年こそ、マルコ自身であると伝えられています。

ところで、なぜマルコは、突然エルサレムに帰ってしまったのでしょうか。その一番の理由は、サウロが、いとこのバルナバ以上に、主に用いられていることへのねたみと怒り、そして、かつての迫害者サウロを赦せない心にあったと考えられるのではないのでしょうか。

紀元50年に教会会議がエルサレムにおいて開催されます。その時に、バルナバはマルコを再びアンティオキアに連れ帰ります。しかし、パウロとバルナバの間にマルコの処遇によって、大きな反目が起こります。

その年から第二回伝道旅行が始まりますが、パウロはシラスと、バルナバはマルコと、二つのチームに分かれることとなります。それから10年間のマルコの消息は詳しく分かっていません。しかし、紀元60年頃には、マルコはパウロと共に、信頼される同労者として、ローマの獄中にいます。

マルコは、紀元50年代の中頃までに福音書を執筆したと伝えられています。この10年間に、通訳者として、ペテロと共に伝道していたマルコは、まったく変えられたことは間違いないことです。そして、その証しとして、福音書を書き上げることが出来たのではないのでしょうか。》

◎お知らせ

※第三主日礼拝は11月21日(日)午前10時から教会で行ないます。